

センター

令和4年度

事業報告書

（和歌山県国際交流センター管理運営事業）

公益財団法人和歌山県国際交流協会

令和4年度の取組概要

和歌山県国際交流センターは、社会の国際化に即した地域の発展を促進し、県民が国際交流及び国際協力に関する活動を行う拠点とするために平成10年12月に設置された。

平成18年からは、「指定管理者制度」により、当センターの効率的・効率的な管理運営を行っており、令和4年度は第V期指定管理期間の初年度となった。

今年度も新型コロナウイルス変異株の感染が全国的に広がったため、感染予防対策に配慮しながらの事業運営が必要となり、昨年度に引き続き当センターの運営にも影響を与える結果となった。そのような中ではあったが、県民の国際化に関する関心や、在住外国人のニーズなどがますます多様化する時代の変化に迅速に対応し、地域住民や外国人住民により親しまれる施設として活用してもらうため、新型コロナウイルスの感染対策を徹底するとともに、対面で実施することができる事業についてはタイミングを見計らいながら実施しつつ、オンライン形式等も積極的に活用して下記の各種事業を実施した。

a. センターの維持管理に関する業務（P.3～）

令和4年度の当センターの年間利用者数は、15,599名と令和3年度に比べ、約20%の増加となった。新型コロナウイルス感染が拡大する時期はあったが、感染予防対策を十分にとりながら利用団体や来館者に周知し、清潔で安心・安全な施設を利用してもらうことができた。

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務（P.5～）

国際交流センターボランティア登録者は120名であり、ボランティアとしての意識をさらに高め、活動をより実りのあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。従来から行っているグローバルセミナー、インターナショナル・カフェ、外国語講座などは、開催方法を工夫しながら実施した。

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務（P.14～）

情報収集提供事業として、他の図書館との差別化を図るため多文化理解関係及び外国人が母語で読むことのできる本等の蔵書をさらに充実させた。ホームページをリニューアルし日本語はやさしい日本語で表記した。安全に運営するためセキュリティの更新などを行った。SNSを活用した情報発信を定期的に行った。

d. 在住外国人等に対する支援業務（P.16～）

相談窓口の運営では、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語の5ヵ国語で様々な相談に対応し、日本語学習支援なども行った。

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務（P.21～）

本年度は近畿地域国際化協会連絡協議会の会長協会として研究会（4回）や総会を開催し、共催研修にも積極的に参加した。災害時多言語支援センターの運営訓練を引き続き行った。また、外国人のための防災啓発講座を実施した。

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務（P.26～）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本年度も海外移住者子弟（北米の南加や中南米の和歌山県人会子弟）の受入事業を中止せざるを得なかった。ブラジル和歌山県人会とは定期的にオンラインで交流が続き、さらにグローバルセミナーを共催して相互理解と親睦を深めた。

g. その他施設を利用した指定管理者自主業務（P.27～）

デジタル情報の配信、わかやま JICA ボランティア応援団業務、DX推進のための取組等を行った。

ア 施設及び指定管理者の状況 施設・設備の保守点検や修繕の状況、管理運営体制等

(1) 施設全体の新型コロナ感染予防対策

利用者が安心して利用できるよう、感染対策の実施と呼びかけを徹底した。

施設の利用団体とはコロナの感染状況が変化する度にコミュニケーションを取り、状況に応じた利用方法等と呼びかけた。

- ・予約時や利用時の感染症対策注意喚起・マスク着用での利用・入館時の手指の消毒・部屋の換気
- ・席間の距離を指定・飛沫防止パネルの設置・高機能空気清浄機・非接触型検温消毒器の設置
- ・来館者カード、体調チェックシートを活用した体調や検温結果の自己申告

また、多言語表記のコロナ対策ポスターを作成し、外国人の方々を含めたすべての利用者へ感染症対策を呼びかけた。

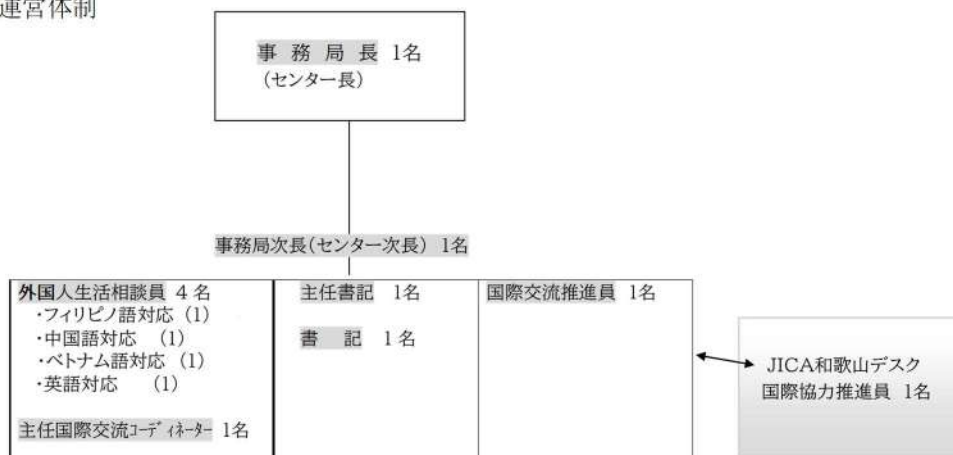
(2) 清掃

国際交流センターを快適に利用してもらうために、毎日の当番制による職員のチェックと簡単な掃除、そして毎週月曜日、木曜日にスタッフ全員で清掃活動を行った。年に2回、センター交流ラウンジ・サークル室・小会議室・倉庫・事務所の大幅な掃除や部分的な床剥離清掃を行い、清潔な環境維持に努めた。

(3) 危機管理体制

- ・施設内での事故等に備え、施設所有管理者賠償責任保険に加入した。
- ・緊急時連絡体制表を更新し、職員全員が内容を把握した。
- ・新型コロナウイルス感染予防対応マニュアルを状況に応じて通年で見直し、内容を更新した。
- ・職員が甲種防火管理者講習を受講し、危機管理体制を強化させた。
- ・新型コロナウイルス感染症オミクロン変異株の感染拡大を受け、和歌山県国際交流センターの施設内がエアロゾル感染に対する十分な喚起対策が取られているのかについて、和歌山ビッグ愛管理事務所とともに設備の機能について確認した。
- ・災害時の多言語支援センター設置運営訓練に職員全員が参加し、危機管理に関する意識共有を行った。
- ・交流ラウンジ内に新たに防災啓発コーナーを設置し、防災グッズの展示を兼ねて災害時多言語支援センター設置運営に必要な備品を備えた。
- ・個人情報とは、「公益財団法人和歌山県国際交流協会 情報セキュリティ対策要綱」に沿って適切に管理した。

(4) 管理運営体制



イ 業務及び利用の状況 指定管理業務・自主事業の実施状況、施設の利用状況等

指定管理業務実施状況

a. センターの維持管理に関する業務

○ センター交流促進事業

和歌山県国際交流センターを様々な目的で訪れる利用者の方々が、コロナ渦の中でも安心して利用できる清潔で快適な施設づくりと、スタッフ・来館者同士のスムーズなコミュニケーションが図れるような環境づくりに努めた。

(P.2再掲 (1)～(3))

(1) 施設全体の新型コロナ感染予防対策

利用者が安心して利用できるよう、感染対策の実施と呼びかけを徹底した。

施設の利用団体とはコロナの感染状況が変化する度にコミュニケーションを取り、状況に応じた利用方法等と呼びかけた。

- ・予約時や利用時の感染症対策注意喚起・マスク着用での利用・入館時の手指の消毒・部屋の換気
- ・席間の距離を指定・飛沫防止パネルの設置・高機能空気清浄機・非接触型検温消毒器の設置
- ・来館者カード、体調チェックシートを活用し、体調や検温結果の自己申告をお願いした。

また、多言語表記のコロナ対策ポスターを作成し、外国人の方々を含めたすべての利用者へ感染症対策と呼びかけた。

(2) 清掃

国際交流センターを快適に利用してもらうために、毎日の当番制による職員のチェックと簡単な掃除、そして毎週月曜日、木曜日にスタッフ全員で清掃活動を行った。年に2回、センター交流ラウンジ・サークル室・小会議室・倉庫・事務所の大幅掃除や部分的な床剥離清掃を行い、清潔な環境維持に努めた。

(3) 危機管理体制

- ・施設内での事故等に備え、施設所有管理者賠償責任保険へ加入した。
- ・緊急時連絡体制表を更新し、職員全員が内容を把握した。
- ・新型コロナウイルス感染予防対応マニュアルを状況に応じて通年で見直し、内容を更新した。
- ・職員が甲種防火管理者講習を受講し、危機管理体制を強化させた。
- ・新型コロナウイルス感染症オミクロン変異株の感染拡大を受け、和歌山県国際交流センターの施設内がエアロゾル感染に対する十分な喚起対策が取られているのかについて、和歌山ビッグ愛管理事務所とともに設備の機能について確認した。
- ・災害時の多言語支援センター設置運営訓練に職員全員が参加し、危機管理に関する意識共有を行った。
- ・交流ラウンジ内に新たに防災啓発コーナーを設置し、防災グッズの展示兼災害時多言語支援センター設置運営に必要な備品を備えた。
- ・個人情報とは、「公益財団法人和歌山県国際交流協会 情報セキュリティ対策要綱」に沿って適切に管理した。

（4）施設内の工夫

施設内の表示は原則全てやさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語で作成し、外国人利用者が安心して利用できる工夫をした。また、レイアウトについても利用促進につながる工夫を以下のとおり各セクションにて行った。

一交流ラウンジ

- ・交流ラウンジでは保有する雑貨や備品を国別に整理し保管した。これらの雑貨や民族衣装は定期的に館内装飾のため利用した。
- ・コロナ渦の中でも、清潔で安心して利用していただける環境づくりに努めた。給茶器を廃止し、ウォーターサーバーを設置して水やお湯を注ぐだけのスティックタイプのお茶やコーヒーも無料で提供した。Wi-Fiを整備し、広く交流ラウンジを団体等に開放した。

一資料閲覧室

利用者が世代別や用途別に快適に利用できるよう、レイアウトを整理し変更した。

資料閲覧室利用に関するデータ等は、P.14「c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務 ○資料閲覧室」に記載。

一防災啓発コーナー

交流ラウンジ内に新たに防災啓発コーナーを設置した。災害時に役立つ防災グッズの展示を兼ねて災害時多言語支援センター設置運営に必要な備品を備えた。また、当センターが発行する多言語防災ガイドをはじめ、災害時に役立つ資料・パンフレット・図書等を展示した。

一キッズコーナー

外国文化に関する絵本や玩具の設置、子供用民族衣装の試着、せかいのぬりえ体験等の内容を取り揃え、お子様連れの方々が利用しやすい環境づくりをした。また、新たに飾り棚を1点追加し、お子様にわかりやすいよう、新着絵本や珍しい外国雑貨を展示した。玩具等は定期清掃での消毒により清潔に維持し、季節に応じた絵本の入れ替えやデコレーションを行い、親子で安心して楽しめるよう維持管理した。

一ボランティア・団体用サロン

和歌山県内の国際交流団体が定期的なミーティングに利用できるスペースを整備した（各団体が利用できるように12個のロッカーを設置し、現在すべてのロッカーが利用されている）。コピー機などを整備し、当センターボランティアや団体の活動をサポートした。

一情報ボード

個人や団体が自己管理のもと、自らの情報を自由に提供できる場所として情報ボードを設置し、「国際交流イベント」、「語学学習のお知らせ」などの情報発信に活用してもらった。また、和歌山県外の外国人支援団体からの情報なども掲示し、在住外国人向けの生活に関する情報を適宜提供した。

b. 国際交流等に関する活動を実施・支援する業務

I センターの施設及び整備の提供

○施設の貸出と環境整備

民間国際交流団体やボランティアグループ等への施設の貸出を行った。また、Wi-Fi 環境やコピー機の保守管理等を適宜整備し、活動しやすい環境づくりに務めた。

○NPO 協働事業

国際交流や異文化・多文化理解を促進している非営利の団体と協働することで、県内の国際交流や異文化・多文化理解の更なる活性化を図り県民の多文化共生への意識を高めるために下記事業を実施した。

◇和歌山信愛大学第3回和信祭への出展

世界には様々な生活文化があり、衣食住は生活文化の柱でもある。その衣食住の中から「衣」を選び、民族衣装からみる生活習慣や地域の活動を捉えて、大学生と在住外国人と交流をし、多様な生活文化をより深く理解していただいた。

(1) 日 時 令和4年12月4日（日） 10:00～15:00

(2) 場 所 和歌山信愛大学

(3) 講 師 和歌山大学留学生 3名

和歌山県内在住外国人 1名

和歌山県国際交流協会主任外国人生活相談員 中尾 静

和歌山県国際交流協会外国人生活相談員 グエン ティ トゥイ ニュー

(4) 対 象 者 和歌山信愛大学学生及び地域住民

(5) 参 加 者 50組 147名

(6) 内 容 民族衣装の着用：大人用（男性、女性） 子ども用

運営方法：3カ国のブースを準備し、各国の方から自国の民族衣装等を紹介してもらう

（30分程度を2ターム、後は自由に交流）

民族衣装の体験（10カ国程度準備）

出前図書館（民族衣装の記載している国の図書を読覧することができる）

当日は和歌山県国際交流センターボランティアも活動（2名）



イベントブースにて自国の衣食住文化を紹介する留学生

◇せかいのぬりえ

コロナ禍でも実現可能な事業として、昨年度に引き続き当センターオリジナルぬりえ「せかいのぬりえ」を制作した。「わかやまのぬりえ」でぬりえ制作実績を持ち、県内で活躍する父親サークル「パパチカ」と協働制作をし、下記テーマのぬりえを作成した。「せかいのぬりえ」はこれまでの発表してきたぬりえと併せ今後もセンター内のキッズコーナーに常置し、来館者に気軽に楽しんでいただくこととした。

(1) テーマ

- ① 12月発表作「ドイツのクリスマス」
- ② 2月発表作「ブラジルの文化」

(2) ぬりえを活用したイベント

「せかいのぬりえコンテスト」の実施

小学生までを対象とし、期間内で作品の応募を受け付けた。

募集期間：令和4年12月1日（木）から12月31日（土）

応募作品：26作品

入賞作品：10作品



せかいのぬりえ ドイツのクリスマス



せかいのぬりえ ブラジルの文化

◇ 世界の5大陸を知ろう事業

世界にはいろいろな国があり、文化がある。県内の複数団体が参画する体験イベントにおいて、センター交流ラウンジを活用したこども向けの体験を企画し、他団体との協力体制の強化と外国文化への理解の促進を行った。**WIXAS** パスポートを持って世界の五大陸の中から3つの国・地域（中国、台湾、ベナン、サモア、コスタリカ、カナダ）を訪問し、海外の生活文化を体験してもらった。

- (1) 日 時 令和4年12月10日（土）10:00~16:00（10:30~12:00、13:30~15:00の二部制）
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室
- (3) 内 容 **WIXAS** パスポートを作って、世界ツアーを実施。各グループ参加者3名が一組になり、6つの国・地域のうち3つの国・地域の衣食住文化を写真やワークショップを通して疑似体験した。また、それぞれの国の言語も教えてもらった。
- (4) 講 師 和歌山市国際交流員1名
青年海外協力隊帰国隊員2名
- (5) 対 象 者 未就学児から小学生（未就学児以下は保護者同伴）
- (6) 参 加 者 12組32名
- (7) 協力体制 和歌山市、JICA 関西

II 国際交流機会の提供

○国際交流センターボランティア登録制度

和歌山県の国際交流活動への関心が高く、ボランティア活動を積極的に行う意欲のある方を募集し、登録後は、活動をより実りのあるものにしてもらうため、分野別の研修会を行った。また、活動に対する思いや目標を高めてもらう機会とするため、全ボランティアを対象とする研修会を実施した。

◇ボランティア登録者数 120名

内訳：（複数登録者あり）

通訳・翻訳 47名 日本語 35名 ホームステイ及びホームビジット 34名

文化紹介（日本文化・外国文化）43名 情報収集提供 11名

（昨年度実績 110名 通訳・翻訳 47名 日本語 32名 ホームステイ及びホームビジット 35名 文化紹介（日本文化・外国文化）30名 情報収集提供 12名）

◇ボランティア登録説明

登録や活動に関心のある方々に対し、担当者が個別対応にて登録制度を説明した。

○ボランティアの人材育成研修

◇ ボランティア研修会

和歌山県が世界に誇る世界遺産である熊野において、地域を保全しつつ外国人観光客を増やしていく取り組みを重ねてきた田辺市熊野ツーリズムビューローのブラッドトウル氏を講師として招き、外国人に受け入れられる地域にするための、「外国人の目線での情報発信」に関する研修を行った。

(1) 日 時 令和5年3月4日（土） 13:30～15:00

(2) 実施方法 Zoomによるオンライン開催

(3) 講 師 田辺市熊野ツーリズムビューロー ブラッド トウル

(4) テー マ 外国人の目線を活かした観光地づくり・観光情報の発信
～田辺市熊野ツーリズムビューローの取組～

(5) 対 象 者 和歌山県国際交流センターボランティア登録者、新規登録希望者

(6) 参 加 者 27名

◇「通訳ボランティア技術向上講座」事業

通訳者であり、通訳養成学校等での指導経験も豊富で、ボランティア活動経験もある講師を招き、通訳ボランティア活動に必要な通訳技術の向上を図るとともに、具体的な目標を決めて勉強する姿勢を保つことなど参加者が通訳に臨む際のアドバイスをいただいた。研修会は和やかな雰囲気の中、日頃の英語学習により積極的に取り組むきっかけとなった。

(1) 日 時 令和5年2月18日（土） 13:30～15:30

(2) 実施方法 Zoomによるオンライン開催

(3) 講 師 大西 比佐代（ボランティアガイド団体「奈良SGGクラブ」会長）

(4) 対 象 者 和歌山県国際交流センター通訳ボランティア登録者

(5) 参 加 者 9名

◇日本語ボランティア研修会（P.18 d. 在住・滞在外国人支援業務 IIコミュニケーション支援に詳細記載）

Ⅲ 交流イベント

○ 「移民展・国際理解写真展」事業

◇ブラジル移民展事業

「戦後ブラジル移民の父」松原安太郎生誕130周年記念顕彰事業巡回パネル展 *Cidada de Wakayama*

- (1) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (2) 主 催 松原安太郎生誕130周年記念顕彰事業実行委員会
和歌山県中南米交流協会
公益財団法人和歌山県国際交流協会
- (3) 協 力 ブラジル和歌山県人会
- (4) 内 容 ブラジルに移住した移民で特に戦後、和歌山県からの移住促進に真摯に向き合った松原安太郎氏に焦点をあててパネル展 *Cidada de Wakayama* を開催した。また、関係のあるブラジルの方々と県民の方との交流の場を設け、これからの世代との交流会をオンラインで行った。

★展示パネル

実施期間：令和4年10月9日（日）～20日（木）

枚 数：24枚（サイズB1）

場 所：国際交流センター 交流ラウンジ

★ブラジル和歌山県人会との交流会

日 時：令和4年10月9日（日）9：30～11：00

配信場所：国際交流センター 交流ラウンジなど

実施方法：Zoomによるオンライン開催

参加者：41名（和歌山からの参加者 21名 ブラジルからの参加者 20名）

内 容：①ブラジル技術研修生OVと和歌山について話そう

②ブラジル和歌山県人会婦人会の活動について話そう

③和歌山、ブラジルの未来を話そう

④松原移住地について話そう

⑤ブラジル和歌山県人会のメンバーと話そう



巡回パネル展 *Cidada de Wakayama* のようす

○ グローバルセミナー事業

在住外国人や外国での生活経験のある方、様々な文化やことばに精通した方々の協力を得て、県民の方々に出会いと交流の場を提供し、世界には多様なことばや文化があることを実感してもらった。さらに、在住外国人が同じ地域に住む住民であるという意識を持ってもらうことを目的に、本グローバルセミナーを開催した。

◇ ブータン映画上映とパネル写真展&トーク

- (1) 場 所：国際交流センター 交流ラウンジ
- (2) 講 師：横出康志（ブータン 手工芸）（帰国隊員 紀美野町在住）
- (3) 内 容：「国際協力の日」にちなんで、南西アジアにあるブータン国の文化を通して身近な国際協力の支援活動について知っていただく機会を提供し、そこに必要な国際協力とは何かについて考えていただいた。

★ブータンの写真展

実施期間：令和4年10月22日（土）～11月6日（日）

場 所：国際交流センター 交流ラウンジ

★ブータンの映画上映及びトーク

日 時：令和4年10月23日（日）13：30～16：00

場 所：国際交流センター 交流ラウンジ

参 加 者：35名

◇ インターナショナル・カフェ2022

県内在住の様々な国の方々と出会い、多様な言葉でコミュニケーションできる場として「インターナショナル・カフェ」を開催した。本年度はNPO 協働事業「世界の5大陸を知ろう事業」と協同実施した。

以下再掲（P.18、19）

世界にはいろいろな国があり、文化がある。県内の複数団体が参画する体験イベントにおいて、こども向けの体験を企画し他団体との協力体制の強化と外国文化への理解促進を行った。

WIXAS パスポートを持って世界の五大陸の中から3つの国・地域（中国、台湾、ベナン、サモア、コスタリカ、カナダ）を訪問し、海外の生活文化を体験してもらった。

- (1) 日 時 令和4年12月10日（土）10：00～16：00（10：30～12：00、13：30～15：00の二部制）
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室
- (3) 内 容 WIXAS パスポートを作って、世界ツアーを実施。各グループ参加者3名が一組になり、6つの国・地域のうち3つの国・地域の衣食住文化を写真やワークショップを通して疑似体験した。また、それぞれの国の言語も教えてもらった。
- (4) 講 師 和歌山大学留学生 2名
和歌山県在住外国人1名
- (5) 対 象 者 未就学児から小学生（未就学児以下は保護者同伴）
- (6) 参 加 者 12組32名
- (7) 協力体制 和歌山市、JICA 関西

◇ 人権セミナー「在住外国人について学ぼう」～外国籍住民の日本でのからし～

- (1) 日 時 令和4年11月27日（日） 13:30～15:30
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ及びZoomによるオンライン開催
- (3) 講 師 木村 雄二（RINK相談員、大阪弁護士会、大阪市教育委員会登録通訳人）
- (4) 参加者 19名（オンライン受講9名含む）
- (5) 内 容 日本に住む在住外国人に関する基礎知識、外国人在留管理制度、在住外国人問題の背景、外国人児童生徒の学校生活について講義を受け、在住外国人が抱える問題について参加者が考える機会となった。

◇ 「ドイツのクリスマスと歌」

- (1) 日 時 令和4年12月17日（土） 16:00～17:30
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 共 催 ドイツ語文化交流協会
- (4) 内 容 ドイツ人留学生によるドイツ・ハンブルクとそのクリスマスの紹介。プロ歌手とトロンボーン演奏者による各国の聖歌、ドイツ語圏の聖歌及びトロンボーン独奏を披露
- (5) 参加者 21名

◇ 「Online Exchange Program with Nanka Wakayama Kenjinkai」（南加和歌山県人会子弟受入事業代替プログラム）

- (1) 日 時 令和5年2月18日（土） 10:30～12:00（日本時間）
- (2) 開催方法 Zoomによるオンライン開催（英語）
- (3) スピーカー 南加和歌山県人会 ジェイミー 竹下、アンドリュー グラハム、キャサリン 政谷
- (4) 参加者 23名 うち通訳ボランティア2名（英語）
- (5) 内 容 和歌山とのルーツ、移民、ロサンゼルス等の現在等についてお話を聞き、英語通訳ボランティアが参加者とスピーカーのコミュニケーションをサポートしながら、フリートークによる交流を楽しんだ。

◇ 「見つけよう！ブラジルの中の『にっぽん』」（中南米和歌山県人会子弟受入事業代替プログラム）

- (1) 日 時 令和5年2月26日（日） 9:30～11:00（日本時間）
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ及びZoomによるオンライン開催
- (3) スピーカー ブラジル和歌山県人会 会長 谷ロジョゼー眞一郎
婦人部長 宮下ちえ子
副会長 梅田パウロ、副会長 友リカルド
- お菓子作り指導 バルベルデ ダ シルバ ジュリア クリステイーナ（和歌山大学ブラジル人留学生）
- (4) 参加者 27名（対面16名、Zoom参加11名）
- (5) 内 容 ブラジルの「日本祭り」の開催様子、県人会の活動について写真や動画を用いて紹介していただいた。ブラジルの日常生活や父の日を参加者の皆さんにバーチャル体験をしてもらった。後半は対面参加者全員、ブラジル人留学生によるブラジルの「ブリガデイロ」の紹介後、お菓子作りに挑戦した。

○ オンライン世界旅行

◇YouTube 配信及びオンライン等での交流に役立てるための映像制作（旧名：オンライン世界旅行）

交流などに今後役立てるためのショート動画を制作した。和歌山県国際交流センターYouTube にアップロードした。本動画は当センターがある和歌山市に焦点を当て、特に同市を代表する観光地や新設の施設紹介などをメインとした。今後、海外の和歌山県人会等との交流時などに、主に「オンライン等での海外交流事業」というプログラム等で活用していく。

※このことについて、当初民間の「海外オンラインツアー」を活用したプログラム（オンラインツアーをまずは知ることに重点を置いたプログラム）を計画していたが、長引くコロナ禍の影響から脱するにつれて益々顔の見える交流型の要請が強まり、それに伴い民間の海外オンラインツアープログラムが縮小するなどの影響もあり本事業の実施が困難となった。その代替案として当協会と関係性のあるカウンターパートナーとの相互交流型の独自プログラムを開発することとなった。令和4年度中にはメキシコとの交流を企画するが現地との調整がうまくいかなかった。さらに、JICA 海外協力隊サモア編交流プログラムの実施に向けても企画と調整をしたが、JICA からの許可が得られなかったため、今年度の標記交流型の事業を延期し、今年度は上記の通り実施した。

○ 学校連携事業

◇ 東和中学校キャリア学習の受入

- (1) 日 時 令和4年6月3日（金） 10:00～12:00
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 参加者 和歌山市立東和中学校 1学年生徒12名
- (4) 内 容 センターを訪問した中学生らに対し、事業所の概要説明、施設見学、和歌山県国際交流センターのSDGsへの取り組みと課題について紹介、ボランティアによる日本語クラスの見学、やさしい日本語ワークショップの実施等により職員らが中心となりキャリア学習を受け入れた。

◇ 和歌山信愛大学での講演の実施

- (1) 日 時 令和4年6月23日（木） 13:00～ 15:00
- (2) 場 所 和歌山信愛大学
- (3) 講 師 (公財)和歌山県国際交流協会 国際交流推進員 木村恵子
- (4) 参加者 信愛大学の学生ら68名
- (5) 内 容 地域再生論「多文化共生まちづくり」について

◇ 向陽キャリアゼミナールの開催

- (1) 日 時 令和4年7月6日（水） 8:40～ 9:40
9:50～10:50
- (2) 場 所 和歌山県向陽高校 1年教室
- (3) 講 師 (公財)和歌山県国際交流協会 事務局次長 亀井勝博
- (4) 参加者 和歌山県立向陽高校 高等部普通科 1学年生徒281名のうち、37名。
その他11名の講義がそれぞれ別室にて同時に行われた。
- (5) 内 容 国際的な職業に関する特別講義を受講することにより、豊かな職業観の育成を図り、今後の学部・学科選びや将来の職業選択に繋げるとともに、本県における次世代を担うグローバルな人材を育成することにつなげた。

◇ 和歌山 YMCA 国際福祉専門学校主催公開講座「みつけよう日本語・日本文化」での講演

- (1) 日 時 令和4年7月16日（土） 14:00～ 15:00
- (2) 場 所 和歌山ビッグ愛2階 201会議室
- (3) 講 師 (公財)和歌山県国際交流協会 事務局長 北山 徹
- (4) 参加者 参加者80名
- (5) 内 容 和歌山県の外国人の状況や傾向について

◇ 箕島高校課題研究会の実施

- (1) 日 時 令和4年10月11日（火） 14:15～ 15:15
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 講 師 (公財)和歌山県国際交流協会 事務局次長 亀井勝博
// 主任外国人生活相談員 鬼塚 ジョアン コンセプション
- (4) 参加者 和歌山県立箕島高校 高等部普通科 3学年生徒5名
- (5) 内 容 「外国人の生活課題について～和歌山県国際交流センター相談室から見た外国人の生活課題」
多文化共生に関する特別講義を受講することにより、本県における次世代を担うグローバルな人材を育成することにつなげた。
①在住外国人を取り巻く壁とは？
②県内の在住外国人の現状
③センター相談室から見た在住外国人の生活課題ほか

◇ 箕島高校課題研究会の実施（第2回目）

- (1) 日 時 令和4年10月25日（火） 13:00～ 14:00
- (2) 場 所 和歌山県箕島高校（Zoomによるオンライン開催）
- (3) 講 師 (公財)和歌山県国際交流協会 事務局次長 亀井勝博
// 主任外国人生活相談員 鬼塚 ジョアン コンセプション
- (4) 参加者 和歌山県立箕島高校 高等部普通科 3学年生徒5名。
- (5) 内 容 「外国人の生活課題について～和歌山県国際交流センター相談室から見た外国人の生活課題」
多文化共生に関する 24 を超える質問を受け、講師からの一つひとつ具体的な事例も示しながら、回答した。

◇ 和歌山市立芦原小学校 在住外国人との交流会の実施

- (1) 日 時 令和4年12月2日（金） 11:00～ 11:50
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、交流ラウンジ
- (3) 講 師 国際交流センター日本語クラス「おはようクラス」講師の方々
(公財)和歌山県国際交流協会 事務局次長 亀井勝博
// 主任国際交流コーディネーター 奥直子
- (4) 参加者 和歌山市立芦原小学校 5学年生徒7名
- (5) 内 容 「和歌山市在住の外国の方々との交流について」
国際交流センター日本語クラス「おはようクラス」の日本語学習者（在住外国人）との交流。
同クラスでの同校児童によるプレゼンテーションの披露、日本語学習者との遊びによる体験的な交流など。

○センター共催事業

◇ 「英会話カフェ」

英会話力の向上や異文化理解の機会を求める方の要望に応えるため、気軽に英会話を楽しむ機会を提供し、参加者が交流を通して自発的な語学学習活動や国際交流活動に取り組んでもらうことを目標に、国際交流センターボランティアと共催で開催した。

- (1) 日 時 第1ターム 令和4年4月19日～7月5日 11回
 第2ターム 令和4年9月13日～11月22日 11回
 第3ターム 令和5年1月10日～3月28日 11回
 13:00～14:10 全33回 全日程火曜日の実施
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ、サークル室
- (3) 内 容 2名の英会話講師による初級英会話クラスを実施した。参加者に講座内だけではなく、自宅での学習にも積極的に取り組んでもらえるよう内容を考え、受講者の実力向上を図った。コロナ感染対策として換気や消毒などに気を配り、レッスンなどは小グループに分け、各部屋10名以下で実施した。運営では各クラスにボランティアスタッフを決め、参加者自らによるクラス運営への積極的な参加を実現した。
- (4) 講 師 佐藤 真理、Alexandre Hashimoto（第1ターム）、ゲーリー（第2、3ターム）
- (5) 受 講 者 第1ターム15名、第2ターム16名、第3ターム17名
- (6) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 佐藤 真理

◇ やさしいドイツ語文化理解講座

県内に在住または勤務する方を対象に、ドイツの言葉や文化を理解してもらうために、国際交流センターボランティアと共催で開催した。

- (1) 日 時 令和4年4月23日（土）～令和5年3月11日（土）
 16:50～18:20 全32回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室
- (3) 内 容 アットホームな雰囲気の中、教科書やプリントに基づいた平易で使用頻度が高い日常生活に関わる表現を学びながら、語学学習にとどまらず食文化や芸術、社会について、ドイツ語圏文化と日本文化をテーマに取り上げ、異文化理解をすすめた。
- (4) 対 象 者 ドイツ語やドイツ文化に興味のある県民
- (5) 講 師 田島 昭洋（大阪市立大学ドイツ語講師）、ドイツ語が母語の話者
- (6) 受 講 者 15名
- (7) 企 画 者 外国文化紹介ボランティア 田島 昭洋

◇ 日本語クラス

県内に在住する外国の方を対象に、日本語や日本文化を学んでもらうために、国際交流センターボランティアと共催等で日本語クラスを実施した。詳細はP.18 コミュニケーション支援事業欄参照

c. 国際交流等に関する情報の収集・発信に関する業務

○ 資料閲覧室

資料閲覧室においては、外国人向けの図書を多数所蔵し、当センター独自の強みとして、「母語で日本語を学べる教材・母語で読むことができる小説」、「世界各国の多様な文化を描いた絵本」の充実等を強化し、他の図書館との差別化を図った。また、多文化共生や国際理解等に関係する多彩な図書を取り揃え、分類ごとにわかりやすく配置した。定期的に内容を入れ替えたメインの飾り棚は、来館者がすぐに手にとってもらいやすい場所に配置した。さらに情報の古くなった図書類の選定を数回に渡って行い、蔵書の整理を行った。

◇ 蔵書数 7,959冊 （昨年度実績 7,667冊）

- (1) 蔵書構成：日本語・外国語図書（外国語小説、日本の小説や漫画の外国語版、日本語学習、外国語学習参考書、和歌山県の紹介、外国文化や海外観光地の紹介、外国語辞書など）
- (2) 整備及び管理方法：日本十進法等により分類

◇ 県民及び在住外国人等からの寄贈

県民や在住外国人から図書の寄贈を受け、リサイクル図書として活用した。

また、民間団体（和歌山東ロータリークラブ）から、168冊の新規図書の寄贈を受け、それらも含め活用した。（※詳細は、令和4年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.6 参照）

◇ 図書貸出サービス登録者数 960名 （昨年度実績 894名）

- ・貸出条件対象者 小学生以上であって県内在住の方、または県内に通勤、通学している方
- ・貸出期間 3週間
- ・貸出冊数 10冊まで
- ・貸出利用者 のべ224件 （昨年度実績のべ223件）
- ・総貸出冊数 592冊 （昨年度実績 459冊）

◇ 除籍図書の寄贈

和歌山県国際交流センター資料閲覧室の運営要項に沿って除籍した本を一定期間センター利用者に呼びかけ設置した。また、その後残った本86冊については、和歌山県 NPO サポートセンターを通じて県内の団体等にお譲りした。（和歌山県内のこども食堂等）

◇ 情報収集ボランティアの活動促進

情報ボランティアにより、資料閲覧室のレイアウトの変更や本整理作業を行った。

- ・除籍図書の整理
- ・多言語絵本を言語別に整理。専用の場所を作り、わかりやすく再配置

◇ 貸出数増加のための取組み

- ・季節やイベントに応じて特設コーナーの設置や、飾り棚を定期的に変化させ更なる利用促進につなげた。
- ・県内の高校及び大学にて図書館司書を務めるメンバーが10代向けにお薦めの本を情報掲載するフリーペーパーを発行する団体「つかさ食堂」と協働し、当センターに蔵書する本を毎月1冊取り上げてインスタグラム等の SNS でコメントつきで紹介するとともに館内にもわかりやすく専用コーナーを設置した。

○ ホームページ及び SNS 等

センターホームページでは、外国人の生活関連情報など多くの情報を発信した。また引き続きフェイスブックやインスタグラム等の SNS を活用し、イベント等のお知らせや実施後の写真等を掲載した。

◇ センターホームページ等

ホームページのリニューアルを実施した。和歌山県国際交流センターと和歌山県国際交流協会の HP を一つに統合させ、県内の国際交流に関する情報を求める県民の方々に、協会とセンターの関係性をより明確にすることができた。さらに、統合によりランニングコストの削減および更新作業やセキュリティ面に関する管理面での作業を効率化した。言語は（日本語・英語・中国語・フィリピン語、ベトナム語）の5言語に対応しており、日本語はすべてやさしい日本語で掲載（※一部を除く）。外国人生活関連情報や、和歌山県内の日本語学習支援に関する情報、イベント等の情報をより分かりやすく掲載した。

新ホームページ公開 令和4年12月19日（月）

- ・センターホームページ閲覧者数 17,738件
（令和4年4月～令和4年12月）
- ・新センター（協会）ホームページ閲覧者数4,724件
（令和4年12月19日～令和5年3月31日）

（昨年度ホームページ閲覧者数実績 22,788件）



リニューアルしたホームページ

◇ フェイスブック等 SNS での情報発信

公式フェイスブック及び公式インスタグラムにて、休館日の案内、各事業に関するイベント告知や報告等タイムリーな情報発信を随時行った。また、フェイスブックと連動したインスタグラムでの情報発信も本年度より開始した。より幅広い年齢層に情報提供をするため年齢層等利用者の分析を行い把握した。

- ・フェイスブックページの「いいね！」数 954件
- ・インスタグラムフォロワー数 135件



フェイスブック



インスタグラム

◇ 「情報提供ボード」による情報発信

国際交流センター廊下に設置したボードに、情報ボランティアによる投稿記事の掲示、和歌山県国際交流センターボランティア活動の紹介、県内の在住外国人に関する記事、在住外国人のための多言語での各種情報の掲示等来館者にわかりやすい様々な内容の情報を掲載した。

d. 在住・滞在外国人支援業務

I 「生活相談」業務

○外国人相談窓口の運営

外国人のための相談窓口を設置し、在住外国人が生活する上で抱える様々な相談に、外国人生活相談員等が英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語で対応した。

相談件数：935件 内容：以下のとおり

当事者国籍・地域別件数

フィリピン	401
ベトナム	152
日本	128
中華人民共和国	114
イギリス	15
アメリカ合衆国	13
インドネシア	11
インド	9
ウクライナ	6
カナダ	6
アルバニア	5
モンゴル	5
ロシア	5
ブラジル	4
オーストラリア	3
フランス	3
タイ	3
ミャンマー	3
スリランカ、ドイツ、大韓民国、マレーシア、ネパール、パキスタン、セネガル	各2
香港、レバノン、台湾、ペルー、カンボジア、ポーランド、シンガポール、アルジェリア、シリア、コートジボアール	各1
不明	25

内容別相談件数

通訳・翻訳	113
日本語学習	80
雇用・労働	77
入管手続き	72
教育	65
身分関係 結婚/離婚/DV等	43
医療	29
住宅	26
社会保険・年金	17
留学	13
国籍	11
税金	9
社会福祉	8
交通・運転免許	7
出産・子育て	5
観光	4
防災・災害	4
その他	352

対応内容別件数

情報提供	476
相談対応	350
通訳・翻訳	40
人材紹介	36
専門窓口の紹介	21
その他	12

○ 外国人のための「専門家による一日相談会」

在住外国人支援の一環として、通常の生活相談の枠を超えた専門的な相談に多言語で対応するため、田辺市において「専門家による一日相談会」を実施した。

- (1) 日 時 令和5年3月5日（日） 13:00～17:00
- (2) 場 所 田辺市民総合センター2階 交流ホール
- (3) 共 催 田辺市、田辺市教育委員会、田辺市国際交流センター
- (4) 相談内容 法律、在留資格・帰化、労働・社会保険・年金、教育、女性、国などの行政、
市政・その他生活一般
- (5) 対応言語 英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語
- (6) 相談実施件数 14件（相談者数11名）
- (7) 相談者国籍・地域別相談件数 フィリピン4件、ベトナム3件、カナダ2件、イギリス2件
ロシア1件、韓国1件、ウクライナ1件

○ 外国人のための巡回無料法律相談

在住外国人支援の一環として、法テラス和歌山と連携し、無料法律相談を企画し、実施した。相談内容は民事、家事、行政事件（*刑事事件は対象外）、日本に居住する収入・資産が一定基準以下の外国人を対象に、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、日本語で対応した。

- (1) 日 時 令和4年5月19日(木)、7月21日(木)、9月15日(木)、11月17日(木)
令和5年1月19日(木)、3月16日(木) 13:00～16:00 各3枠
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室
- (3) 相談実施件数 3件
- (4) 共 催 法テラス和歌山

○ 相談員の資質向上研修等

・ 第三回外国人相談窓口連絡会へのオンライン参加

- (1) 日 時 令和5年3月2日（木）10:30～11:30
- (2) 内 容 大阪出入国在留管理局による相談窓口等の実務者間での情報交換会に相談員等が参加

・ RINK スキルアップ講座オンライン受講

- (1) 日 時 令和4年6月18日、7月2日、7月30日、8月6日いずれも土曜日、9月11日（日）
いずれも13:00～17:00
- (2) 内 容 出入国管理、労働、社会保障、教育等の制度開設等について相談員等が参加

・ 近畿地域国際化協会連絡協議会での情報交換会

- (1) 日 時 令和4年10月27日（木）午後3時～4時
- (2) 場 所 和歌山ビッグ愛8F 和歌山県国際交流センター交流ラウンジ
- (3) 内 容 分科会にて各府県の相談業務担当者らによる、事例や情報交換会に相談員が参加

○ 外国人のための多言語情報提供

- ・ 和歌山県外国人サポートメールの配信（※詳細は、令和4年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.9~11 参照）
- ・ 協会情報誌の共同発行（※詳細は、令和4年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.5 参照）

Ⅱ コミュニケーション支援事業

在住外国人へ日本語学習を支援するボランティアのサポートを行い、共催等で日本語クラスを実施した。さらに研修会などを通して、ボランティアの支援力及び技術力を強化し、日本語教育の関係者や関係団体との連携を深めた。

○ 日本語クラス

県内に在住する外国の方を対象に、日本語や日本文化を学んでもらうために、国際交流センターボランティアと共催等で日本語クラスを実施した。

「もっと日本語クラス」

- (1) 日 時 令和4年4月10日（日）～令和5年3月26日（日）
10：30～12：00 全40回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、交流ラウンジ等
- (3) 内 容 中級レベルの日本語文法や会話表現
- (4) 講 師 和歌山にほんごの会 NAGOMI
- (5) 受講者数 延べ人数 約791名

「日本語 おはようクラス」

- (1) 日 時 令和4年4月15日（金）～令和5年3月17日（金）
10：30～12：00 全35回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、小会議室、交流ラウンジ等
- (3) 内 容 入門・初級レベルの表現から中級レベルの文法まで
- (4) 講 師 にほんご HYT の会
- (5) 受講者数 延べ人数 約353名

「わがっこ」（和歌山から外国につながるこどもたち）

- (1) 日 時 令和4年4月9日（土）～令和5年3月25日（土）
13：00～16：00 全20回
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室、小会議室等
- (3) 内 容 こどもの日本語教育および学習サポート
- (4) 講 師 八巻 由実子
- (5) 受講者数 延べ人数 約109名

「いっしょににほんご」

- (1) 日 時 令和4年4月～令和5年3月
月平均3回 36回程度実施
- (2) 実施方法 Zoom によるオンライン（個別・少人数）
- (3) 内 容 入門～中級
- (4) 講 師 中野 豊子
- (5) 受講者数 延べ人数 約76名

○ 日本語研修会等

◇ 令和4年度 自治体職員対象 やさしい日本語研修会

- (1) 日 時 令和4年12月19日（月）13：30～15：30
- (2) 実施方法 Zoomによるオンライン開催
- (3) 講 師 聖心女子大学 日本語日本文学科 岩田一成教授
- (4) 受講者数 56名（県職員27名、市町村職員29名）
- (5) 内 容 県職員・市町村職員が、在留外国人が理解しやすい「やさしい日本語」の知識を深め、在留外国人へのコミュニケーション支援の取り組みへとつなげてもらうことを目的に実施した。研修終了後には参加者にやさしい日本語に関する課題を提出してもらった。

◇ 日本語ボランティア研修会

新型コロナウイルスの状況下において、地域の日本語学習支援を縮小させないため、オンラインツールを活用した研修会を経験者と初心者向けに実施した。経験者の方にはオンラインを活用しつつ日本語教育の知識と技術を高めていただき、初心者の方には日本語学習支援に対して高いハードルを感じず、学習支援を通じた地域の国際交流をさらに推進するため、誰でも使えるオンライン教材を活用した日本語学習サポート方法に関する研修会を2週にかけて実施した。（※海南市・紀美野町・有田エリアにおける日本語教室空白地域解消事業におけるボランティア募集の研修会を兼ねる）

- (1) 日 時 (1回目) 令和4年11月 5日（土） 13：30～15：00
(2回目) 令和4年11月12日（土） 13：30～15：00
- (2) 場 所 Zoomによるオンライン開催
- (3) 講 師 国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員
戸田 淑子、國頭 あさひ、笠井 陽介
- (4) 内 容 「Can-doに基づく教えかた、学び方」「誰でも使えるオンライン教材を活用した日本語学習」についてお聞きし、いづれ日本語オンラインコースのコンテンツを実際に見ながら活用方法を参考にした。
- (5) 参加者 第1回目（24名）、第2回目（27名）

◇ 令和4年度 和歌山県内における日本語教室空白地域解消事業（海南・紀美野・有田エリア）

今年度、県内の日本語教室空白地域である海南市、紀美野町、有田市エリアを中心に、日本語学習の機会を拡充するための事業を下記のとおり実施した。

- (1) 実施期間 令和4年度（令和3年度12月から）
- (2) 実施方法 令和3年12月 国際課を通じて、海南市企画財政課、有田市秘書広報課に協力を依頼
令和4年 1月 海南市、有田市、センター日本語ボランティア吉村純三氏、WIXAS 職員でZoomによる打ち合わせ
令和4年3月～4月 ①海南市教育委員会、有田市教育委員会による教室の確保
②教室開講準備及び開講（海南ノビノス、有田市立保田公民館）
令和4年7月～8月 ①海南市、有田市、紀美野町、海南商工会議所、紀州有田商工会議所、ハローワーク海南、ハローワーク湯浅（※広川町、湯浅町、有田川町も別途訪問）を訪問し、情報交換及び広報等の協力依頼
②商工会議所等から海南・紀美野・有田エリアの外国人企業リストをいただきすべての企業に電話によるヒアリングを実施。チラシの送付。
③教室開講準備及び開講（有田市立箕島公民館、有田市立宮原公民館）
令和4年9月～11月 海南・紀美野・有田エリアでの日本語学習支援ボランティア募集のための研修会参加者募集及び実施（※上記日本語ボランティア研修会と同内容）
令和5年1月 海南・紀美野・有田エリアで活動を希望する日本語ボランティアミーティング実施（海南ノビノス教室見学を兼ねる）

(3) 新規開講教室数及び平均学習者数

- ①海南ノビノス教室（約2名）
- ②有田保田教室（約7名）
- ③有田宮原教室（約1名）
- ④有田箕島教室（約8名） ※海南異教室（1名）現在は休講中

(4) 参加日本語ボランティア数 8名（上記の教室に分かれて参加）

○コミュニケーション支援事業に関する講演等

◇有田地方小中学校事務研究協議会研修会

- (1) 日 時 令和5年2月16日（木）14:00～15:00
- (2) 場 所 広川町民会館2階大研修室
- (3) 講 師 （公財）和歌山県国際交流協会 主任国際交流コーディネーター 奥 直子
- (4) 参加者 32名
- (5) 内 容 和歌山県内の外国人状況や外国につながる子どもに関する相談事例と対応ケースについて

◇日本語教育にかかる総合調整会議

- (1) 日 時 令和5年3月13日（月）14:30～15:30
- (2) 場 所 県立きのくに青雲高等学校 4階視聴覚教室
- (3) 講 師 （公財）和歌山県国際交流協会 主任国際交流コーディネーター 奥 直子
- (4) 参加者 15名
- (5) 内 容 和歌山県国際交流センター日本語学習支援事業及び日本語教室空白地域解消事業について
和歌山県国際交流センターの外国人生活相談について

○ その他在住外国人支援

在住外国人に活用してもらいたいという希望で県民の方々が寄贈した物品を、期間を決めて設置し、当センターを利用する在住外国人の方々が持ち帰った。

- (1) 設置期間 令和4年4月及び5月中
- (2) 場 所 国際交流センター サークル室
- (3) 内 容 食器約100点と日本文化関連の小物



食器等寄贈された物品

e. 在住外国人等に対する防災対策及び危機管理支援業務

災害予防対策

1. 防災啓発

◇多言語（やさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語）による防災啓発パンフレット「防災ガイド」を随時改定・増刷し、その周知に努めた。
また、当センターホームページ上でも閲覧やダウンロードができるよう改定版を掲載した。

主な配布先

- ・ 県内各市町村
- ・ 日本語学校
- ・ 外国人技能実習生を受け入れている組合
- ・ 当センター主催事業にて
 - ★ 専門家による一日相談会にて
 - ★ 外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSAI」にて



ホームページのようす 防災ガイドがダウンロード可能

◇「やさしいにほんご」による音声と多言語サブタイトル（英語・中国語・韓国語・フィリピン語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語から選択可）を挿入した防災啓発ビデオグラムを問い合わせに応じて配布した。

◇ 外国人のための防災ワークショップ「Let's Study BOSAI」

地震や津波、台風などの災害発生に備え、在住外国人等が自らの防災に関する知識と意識を高め、災害時に適切な行動を取れるようにすることを目的に、地震等災害についての基礎知識を学び、グループで様々なミッションに挑戦する実践型イベントを実施した。

- (1) 日 時 令和4年5月22日（日） 13:00～15:30
- (2) 場 所 ビッグ愛9F会議室 A、B、C 及び消費生活センター研修室、国際交流センター交流ラウンジ
- (3) 主 催 NHK和歌山放送局、和歌山県国際交流センター
- (4) 協 力 和歌山地方气象台、日本防災士会和歌山県支部、和歌山にほんごの会NAGOMI
- (5) 参加者数 外国人25名、運営関係者34名
- (6) 内 容
 - ①外国人になじみのない地震や津波、台風などの災害についての基本知識を学ぶためのオリエンテーション
 - ②災害に生かせる実践型ワークショップ
 - ～実践内容～
 - ・ 身近なもので災害用簡易トイレづくり体験 ・ 避難用持ち出し袋の準備体験
 - ・ 避難所で使用されている災害用テントの体験・浸水イメージAR体験

③全体講座

- ・地震・津波・台風などの災害の知識を学ぶ
- ・台風など事前に予報で備えができる場合の備えのあり方を考える
- ・和歌山の災害の特徴を全国と比較しながら紹介

※共通使用言語は、やさしい日本語のほか、必要に応じてベトナム語、中国語、フィリピン語、英語



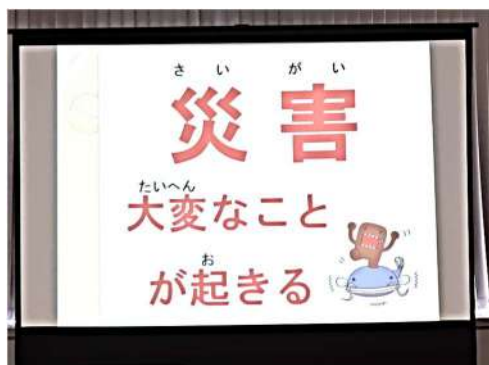
非常用持出袋について学ぶ



VR 浸水体験



避難所で使用されているテントの体験



全編やさしい日本語での講義

2. 多言語支援センターの設置・運営訓練及びその他研修への参加

◇ 和歌山県災害時避難所巡回訓練

- (1) 日 時 令和5年1月12日（木）10:30～16:00
- (2) 場 所 和歌山県ビッグ愛大ホール・上富田町
- (3) 内 容 講演：テーマ「熊本地震での外国人支援活動から見てきたこと～外国人被災者の課題、住民基本台帳を活用して安否確認、平時の災害に強い多文化共生地域づくりの事例～」
訓練：「避難所での外国人被災者対応の心得 やさしい日本語の概要とアウトプット」
講師：八木 浩光（クレア地域国際化推進アドバイザー）
松本 義弘（クレア地域国際化推進アドバイザー）
参加者：和歌山市22名、上富田町15名、オンライン参加近畿ブロック等21名
外国人8名、国際課7名、WIXAS9名 合計82名

◇ 和歌山県災害時多言語支援センター設置運営訓練（近畿ブロック連携訓練）

- (1) 日 時 令和5年1月19日（木）13:00～16:00
- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ
- (3) 内 容 講演：テーマ「災害時の外国人支援に活かせる連携の在り方について～和歌山県の事例から～」
訓練：「和歌山県災害時多言語支援センター設置運営マニュアルを使用した多言語支援センター運営（近畿ブロックとの遠隔翻訳・通訳連携）実証訓練」
講師：城山 雅宏（元和歌山県国際交流協会外国人生活相談室長）
参加者：近畿ブロック参加者17名、国際課6名、WIXAS9名、外国人4名
合計36名



講義



訓練



多言語支援センター設置運営訓練

「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」

近畿圏内において発生する大規模災害に対し、相互に協力し、外国人に対する災害応急対策及び災害予防対策の支援を円滑に推し進める体制づくりを行うことを目的に、災害時多言語支援センターの設置、運営訓練を実施するとともに、本年度は3度目の会長協会として、研究会及び総会、分科会などを企画し、開催した。他協会が実施する共催研修会にも積極的に参加した。

◇ 近畿地域国際化協会連絡協議会 総会

- (1) 日 時 令和4年8月4日（木）14：30～16：00
- (2) 開催方法 Zoomによるオンライン開催
- (3) 内 容 堺市の準構成員としての加入、令和3年度事業報告・収支決算報告及び監査報告、令和4年度事業計画（案）及び予算（案）、災害時における外国人支援ネットワークに関する協定書の改定、緊急災害支援特別会計規程の制定など
- (4) 主 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇ 「kokoka 防災訓練2022」

- (1) 日 時 令和4年6月25日（土）14：00～17：00
- (2) 場 所 kokoka 京都市国際交流会館 特別会議室、第1・2会議室、会館前広場
- (3) 内 容 初期消火、応急処置訓練、起震車体験、防火・防災動画視聴、講演会「外国人被災者と阪神淡路大震災」、ワークショップ
- (4) 主 催 京都市国際交流協会
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会



起震車体験のようす

◇ 「災害時における外国人支援ネットワーク近畿ブロック研究会」（第1回～第4回）による協議

- (1) 日 時 第1回 令和4年7月1日（金）、第2回 令和4年10月27日（木）
第3回 令和4年12月9日（金）、第4回 令和5年3月10日（金）
第1回 14：00～15：30
第2～4回 14：00～16：00
- (2) 場 所 和歌山ビッグ愛9階 会議室Cなど
- (3) 内 容 年間事業計画・収支予算、総会、副会長研修、共催研修、災害時の緊急連絡体制・情報共有

◇「災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練」

- (1) 日 時 令和4年11月12日（土）10：00～16：00
- (2) 場 所 兵庫県立神戸生活創造センター、KICC 交流スペース
- (3) 内 容 「神戸市外国人専門相談窓口」、「ひょうご多言語広域支援センター」の開設・運営、避難所巡回訓練
- (4) 主 催 近畿地域国際化協会連絡協議会、（一財）自治体国際化協会

◇「水害における災害時多言語支援センター開設・運営を考える」

- (1) 日 時 令和5年1月26日（木）13：30～16：30
- (2) 場 所 マイドームおおさか 8階 第1・2会議室
- (3) 内 容 （公財）佐賀県国際交流協会主事 北村浩氏による講義、グループディスカッション（リモートワーク体験）、ふりかえり
- (4) 主 催 （公財）大阪府国際交流財団
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇「区と連携した災害時外国人支援・災害多言語支援センター運営研修」

- (1) 日 時 令和5年3月5日（日）9：00～12：30（遠隔通訳支援に参加）
- (2) 開催方法 Zoom によるオンライン開催
- (3) 内 容 近畿ブロック会長協会から各協会への依頼の流れ、翻訳支援、オンライン Zoom による通訳支援などの連携に関する訓練
- (4) 主 催 公益財団法人大阪国際交流センター、大阪市阿倍野区役所
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会

◇「災害時多言語支援センター設置・運営訓練」

- (1) 日 時 令和5年3月8日（水）13：00～16：30
- (2) 場 所 京都テルサ西館3階第2会議室
- (3) 内 容 総務班、情報班、巡回班に分かれ、支援センター設置の記者発表、情報収集・トリアージ、多言語情報作成・FB へアップロード、アプリなどを活用して外国人被災者への聞き取りなどの訓練をした。
- (4) 主 催 京都府、公益財団法人京都府国際センター、公益財団法人京都市国際交流協会
- (5) 共 催 近畿地域国際化協会連絡協議会、JICA 関西



情報班の訓練のようす

f. 海外移住者及び海外県人会に対する支援及び交流事業の実施業務

○ 海外移住者子弟受入事業

海外に移住した県人の子弟を県内の一般家庭に受け入れ、ホームステイを通じてお互いの国の文化や風俗を理解し、移住先国と自らのルーツである和歌山、日本との相互理解を深めた。

◇ 南加和歌山県人会子弟受入事業 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

- (1) 受入期間 令和4年7月初旬～中旬
- (2) 人数 2名
- (3) 内容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、
グローバルセミナーのゲストスピーカー、茶道体験、日米協会主催昼食会
- (4) 協力団体 和歌山日米協会、和歌山大学

※世界各国で渡航や入国制限の措置がとられていたことから、本事業の中止を決定した。

代替事業

南加事業代替プログラム「Online Exchange Program with Nanka Wakayama Kenjinkai」を実施した。

詳細はP.10 参照

◇ 中南米和歌山県人会子弟受入事業 【新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止】

- (1) 受入期間 令和5年1月下旬～2月中旬
- (2) 人数 在ブラジル和歌山県人会 1名
在パラグアイ和歌山県人会 1名
- (3) 内容 ホームステイ、県知事・県議会表敬訪問、理事長主催昼食会、高校生や大学生との交流、親戚との交流、グローバルセミナー、日本文化体験など
- (4) 協力団体 わかやま南北アメリカ協会、中南米交流協会、和歌山大学

※世界各国で渡航や入国制限の措置がとられていたことから、本事業の中止を決定し、ブラジル県人会及びパラグアイ県人会にお知らせした。

代替事業

グローバルセミナー事業「見つけよう！ブラジルの中の『にっぽん』」を実施した。

詳細は、令和4年度和歌山県国際交流センター管理運営事業報告書 P.10 参照

◇ ブラジル和歌山県人会と交流会の開催

開催日時：隔週土曜日9：00～10：00（ブラジル時間 金曜日21：00～22：00）

開催方法：Zoomによるオンライン開催

参加人数：県人会メンバー10名前後、協会職員4名、日本語ボランティアなど数名

内容：ブラジル和歌山県人会メンバーの日本語スキルアップ及び県人会等の活動紹介や情報交換など

自主事業実施状況

g. その他施設を利用した指定管理者自主業務

○デジタル情報配信事業

◇和歌山県国際交流センターニュースの発行

再掲（※詳細は、令和4年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.5 参照）

和歌山県国際交流センターを拠点に当協会の事業及び地域の国際化の動きなどの情報を掲載している広報誌を年3回発行した。（センター共同発行）

発行月：9月、12月、3月

発行部数：各1,500部

◇和歌山県外国人サポートメール配信事業

再掲（※詳細は、令和4年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.9~10 参照）

和歌山県より和歌山県外国人サポートメール配信業務の委託を受け、和歌山県に在留する外国人に対して、災害、健康、安全等に関する情報を多言語（やさしい日本語、英語、中国語、フィリピン語、ベトナム語）で配信した。

※主な配信の時期、内容、周知先については上記(自主事業)事業報告書 P.9~10 参照

○わかやま JICA ボランティア応援団

- ・国際理解促進事業として、役員及び会員へクロスロードを配布した。
- ・JICA ボランティア推進事業として、協力隊ナビプラスを実施した。
- ・隊員・留守家族への支援事業等として、出発する隊員への「わかやま隊員応援セット」の集荷及び贈呈した。また、下記の日程で県内市町村を表敬訪問へ随同行した。

令和4年7月13日（水）和歌山県庁、令和4年7月21日（水）美浜町、令和4年9月12日（月）和歌山県庁、

○DX推進の積極的な取組

再掲（※令和4年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.6）

センター職員向けに、オンライン、クラウドサービス、SNS 戦略の強化などを中心に、ICT 推進を目的とした研修を定期的実施した。（オンラインの特性、Zoom の使い方、PC の設定方法、チラシの作成・動画編集など）。講師は西峰祐美氏（元 PC インストラクター）

・日 時（イベント時のみ内容表記）

第 1回 4月 28日 (木) 13:00-17:00	第 9回 9月 8日 (木) 13:00-16:30
第 2回 5月 15日 (日) 10:00-17:00	第10回 9月 22日 (木) 13:00-16:00
第 3回 5月 26日 (木) 12:30-16:30	第11回 10月 9日 (日) 9:00-12:00 ブラジル交流会
第 4回 6月 9日 (木) 13:00-15:00	第12回 11月 27日 (日) 12:00-17:00 人権セミナー
第 5回 7月 1日 (金) 12:00-16:00	第13回 12月 23日 (金) 12:00-16:00 インスタグラム研修
第 6回 7月 28日 (木) 13:00-17:00	第14回 1月 12日 (木) 9:30-17:00 多言語支援センター設置訓練①のオンライン運営補助など
第 7回 8月 4日 (木) 13:00-16:00	第15回 1月 19日 (木) 12:30-17:00 多言語支援センター設置訓練②のオンライン運営補助など
第 8回 8月 25日 (木) 13:00-16:00	第16回 3月 5日 (日) 13:00-16:00 ICT推進事業の総括及び新年度事業の協議

・場 所 国際交流センター 交流ラウンジ

○ オンライン世界旅行 再掲 (P.10)

◇YouTube 配信及びオンライン等での交流に役立てるための映像制作（旧名：オンライン世界旅行）

交流などに今後役立てるためのショート動画を制作した。和歌山県国際交流センターYouTube にアップロードした。本動画は当センターがある和歌山市に焦点を当て、特に同市を代表する観光地や新設の施設紹介などをメインとした。今後、海外の和歌山県人会等との交流時などに、主に「オンライン等での海外交流事業」というプログラム等で活用していく。

※このことについて、当初民間の「海外オンラインツアー」を活用したプログラム（オンラインツアーをまずは知ることに重点を置いたプログラム）を計画していたが、長引くコロナ禍の影響から脱するにつれて益々顔の見える交流型の要請が強まり、それに伴い民間の海外オンラインツアープログラムが縮小するなどの影響もあり本事業の実施が困難となった。その代替案として当協会と関係性のあるカウンターパートナーとの相互交流型の独自プログラムを開発することとなった。令和4年度中にはメキシコとの交流を企画するが現地との調整がうまくいかなかった。さらに、JICA 海外協力隊サモア編交流プログラムの実施に向けても企画と調整をしたが、JICA からの許可が得られなかったため、今年度の標記交流型の事業を延期し、今年度は上記の通り実施した。

ウ 利用者アンケートの状況 利用者アンケートの内容及び対応状況等

和歌山県国際交流センターの利用者へのアンケート結果は以下のとおり。（カッコ内で回答割合を示す）。アンケートの実施方法については、アンケート用紙の配布及び google form を活用したインターネット上での回答の方法を用いた。総回収枚数は139名、うち在住外国人は41名。アンケート結果については職員全員で共有し、特に改善が必要なご意見については具体的な解決策について話し合った。

○アンケート内容

「和歌山県国際交流センター利用アンケート調査」

① あなたの年齢を教えてください。（回答数 138）

- ・ 10代 (0.7%)
- ・ 20代 (14.5%)
- ・ 30代 (14.5%)
- ・ 40代 (0.8%)
- ・ 50代 (18.1%)
- ・ 60代 (21.7%)
- ・ 70代 (18.8%)
- ・ 80代以上 (4.3%)

② あなたはどのようにして、センターを利用していますか？（回答数 139）

- ・ 日本語クラスに参加するため
- ・ サークル室を利用するため（団体活動でサークル室を利用するため）
- ・ ボランティア活動のため
- ・ イベント・講座・研修への参加のため (23%)
- ・ 本を借りるため (30.2%)
- ・ 情報を得るため (37.4%)
- ・ 相談を受けるため (28.8%)
- ・ 調べ学習のため (10.1%)
- ・ その他

③ センターの職員、スタッフの対応について。（回答数 139）

- ・ とても良い (65.5%)
- ・ 良い (28.8%)
- ・ 普通 (5.7%)
- ・ 悪い (0%)
- ・ とても悪い (0%)

④ センターの清掃について。（回答数 139）

- ・ とても良い (59.7%)

- ・良い (28.8%)
- ・普通 (5%)
- ・悪い (0%)
- ・とても悪い (0%)

⑤ センターの新型コロナウイルス対策について。(回答数 139)

- ・十分 (72.7%)
- ・改善の余地あり (6.4%)
- ・わからない (20.9%)

⑥ センターの利用についての満足度を教えてください。(回答数 139)

- ・とても満足 (58.3%)
- ・満足 (29.5%)
- ・普通 (10.8%)
- ・不満 (1.4%)
- ・とても不満 (0%)

⑦ 不満、とても不満と答えた方に聞きます。どういった点が不満ですか？具体的に聞かせてください。

- ・ほとんどボランティアの活動機会がない。
- ・駐車場について

⑧ 外国人の方にお聞きします。当センターを利用するとき、不便なことや困っていることはありませんか？

- ・特になし（複数回答あり）

⑨ 和歌山県国際交流センターへのご意見・ご要望、日ごろのご感想があれば自由にお書きください。

- ・いつもご相談やご報告にお伺いさせていただくと、丁寧なご対応をいただき感謝しております。
- ・もう少し情報発信頻度を上げてほしい、発進の方法を増やしていただけたら嬉しいなと思っています。
- ・親子で参加できる講座も増え、娘や生徒さんも楽しんでます。感謝しています
- ・コロナ以前から活動の場が少なくなっていた上に、現在はほとんど活動がありません。もっと機会があれば嬉しいのですが。
- ・電話を受けた時に名乗ってほしい。コロナ対策はもう少し早急にしてほしかった。
- ・日本語ボランティア向けの研修を行っていただけなので、ありがたいです。
- ・和歌山市在住の外国人の方と交流できるイベントがあれば嬉しいです。
- ・いつも丁寧な対応をいただきありがとうございます。
- ・掲示板を定期的に整理してほしい。
- ・テーブルの配置が良い。お茶・コーヒー無料は大満足。
- ・国際交流活動の事業ありがとうございます。
- ・国際交流事業（研修・求人・ボランティア）の紹介がもっと増えれば、嬉しいです。
- ・スタッフの方の感じがとても良い（複数回答あり）
- ・日本語学習関係の本をさらに増やしてほしい
- ・ボランティア活動と交流活動があれば教えてほしい

エ 再委託の実績

①委託実績1

- (1) 契約件名 令和4年度和歌山県国際交流センター ホームページ保守管理
- (2) 再委託の内容 センターHPの保守管理
- (3) 再委託を行う理由 HP保守管理に関しては専門的な知識と技術が必要となるため専門業者に委託
- (4) 再委託先 ブレインズ株式会社 代表取締役 長谷川 健介(和歌山市太田736-5)
- (5) 再委託金額 保守管理費 181,500円

②委託実績2

- (1) 契約件名 令和4年度和歌山県国際交流センター ホームページ制作（リニューアル）および保守管理
- (2) 再委託の内容 センターホームページの制作（リニューアル）
保守管理（令和4年12月19日～令和5年3月31日）
- (3) 再委託を行う理由 HP制作と保守管理に関しては専門的な知識と技術が必要となるため専門業者に委託
- (4) 再委託先 株式会社和歌山新報社 代表取締役 津村周（和歌山市福町49番）
- (5) 再委託金額 制作費 812,900円、保守管理費 23,760円

オ KPI（重要業績評価指標）の達成状況

○指定管理者として掲げる成果目標（KPI）に対する結果は以下のとおり。

(1)利用者数 前年度比でプラス1,000人（オンライン利用者数を含む）

和歌山県国際交流センターへの利用者数（オンライン含む）は、令和4年度は15,599名となり昨年度の12,920人と比較し、単年度目標達成率は259%となった。令和4年度和歌山県国際交流センター利用者数は以下のとおりである。新型コロナウイルスの感染対策を徹底するとともに、対面で実施することができる事業についてはタイミングを見計らいながら実施しつつ、ハイブリット型の参加形式やオンラインによる参加形式も積極的に活用し各種事業を実施した。ハイブリット形式やオンライン形式でのイベント運営を行う職員のスキルやオンラインによる参加者が定着してきた結果となった。

※下記表ではサークル室利用者及びオンライン参加者数は来館者総数に含む

月	利用者総数	※うちサークル室利用者数	※うちオンライン参加者数
令和4年度	15,599	3,397	696
令和3年度	12,920	2,389	253
令和2年度	16,651	3,338	
令和元年度	21,722	4,245	
平成30年度	34,269	4,792	
平成29年度	25,419	4,312	
平成28年度	26,295	3,981	
平成27年度	25,713	3,811	
平成26年度	22,291	3,238	
平成25年度	25,745	2,877	

（2）センター利用者の満足度 普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が80%越え

和歌山県国際交流センターで年2回アンケート月間を設け、利用者の協力により集めた利用満足度アンケートで、当センターの利用満足度を問うたところ、普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が98.6%となり、目標を上回ることができた。

（3）各事業講座等の参加者満足度 普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が80%越え

国際交流センター主催事業の研修会、講座、イベント等にて参加者の協力により集めた参加者アンケートにて、満足度を問うたところ、普通以上「とても満足」・「満足」・「普通」が98%となり、目標を上回ることができた。

カ サービス向上や管理運営経費削減の取組状況

○経費の縮減

令和4年度も事業費の削減に努めた。また、仕事の効率化と職員の健康管理の面からも、職員1人ひとりの時間単位の生産性の向上を図り、時間外勤務（超過勤務手当）の短縮に努めた。電気代の高騰により一部では費用が増加したが、通信運搬費、消耗品費などの削減可能な事務経費は、日々の管理により変化に気づき、職員への情報周知や経費の可視化等の工夫を行い、職員が一丸となり経費の縮減に取り組んだ。

○外部資金の活用

自治体国際化協会（CLAIR）からの助成金を活用し、外部からの資金調達に努めた。

キ 各種研修の実施状況

再掲（令和4年度和歌山県国際交流協会事業報告書 P.4）

○相談研修

- （1）日時 令和4年9月29日（木） 14:00～16:00
- （2）講師 公益財団法人和歌山県人権啓発センター 岩見相談員
- （3）内容 相談対応の基本について
- （4）参加対象者 全職員及びJICA和歌山デスク職員（11名）

○ハラスメント研修

- （1）日時 令和4年12月1日（木） 10:30～12:00
- （2）講師 社労士 村上寿美子（和歌山産業保健総合支援センター派遣講師）
- （3）内容 ①職場内ハラスメントについて ②メンタルヘルスについて
- （4）参加対象者 全職員及びJICA和歌山デスク職員（11名）

○ 人権研修

- (1) 日時 令和5年2月16日（木）10：00～
- (2) 講師 和歌山県 企画部企画政策局国際課 副課長 山下善夫
- (3) 内容 ①同和問題 ②北朝鮮当局による日本人拉致問題
③性の多様性 ～多様性を認め合い誰もが活躍できる社会の実現を目指して～
- (4) 参加対象者 全職員及びJICA 和歌山デスク職員（11名）

○ その他事業に関連する研修

◇相談員の資質向上研修等 再掲（令和4年度和歌山県国際交流センター管理運営事業報告書 p.17）

第三回外国人相談窓口連絡会へのオンライン参加

- (1) 日 時 令和5年3月2日（木）10：30～11：30
- (2) 内 容 大阪出入国在留管理局による相談窓口等の実務者間での情報交換会に相談員等が参加
RINK スキルアップ講座オンライン受講

- (1) 日 時 令和4年6月18日、7月2日、7月30日、8月6日いずれも土曜日、9月11日（日）
いずれも13：00～17：00

- (2) 内 容 出入国管理、労働、社会保障、教育等の制度開設等について相談員等が参加
近畿地域国際化協会連絡協議会での情報交換会

- (1) 日 時 令和4年10月27日（木）午後3時～4時
- (2) 場 所 和歌山ビッグ愛8F 和歌山県国際交流センター交流ラウンジ

◇ YouTube 配信及び ICT 推進事業

（※詳細は、令和4年度和歌山県国際交流協会(自主事業)事業報告書 P.6 参照）

YouTube を含めて SNS やオンラインツールなど、当協会の ICT を推進するため、当協会職員への技術研修及び事業実施時のテクニカルサポートを行える専門家への業務委託を行った。その中でも、特にセンター職員向けに、オンライン、クラウドサービス、SNS 戦略の強化などを中心に、ICT 推進を目的とした研修を定期的
に実施した（オンラインの特性、Zoom の使い方、PC の設定方法、チラシの作成・動画編集など）。講師は西峰
祐美氏（元 PC インストラクター）

- (1) 日 時（イベント時のみ内容表記）

- (2) 場 所 国際交流センター 交流ラウンジ

第 1 回 4 月 28 日（木） 13:00-17:00	第 9 回 9 月 8 日（木） 13:00-16:30
第 2 回 5 月 15 日（日） 10:00-17:00	第 10 回 9 月 22 日（木） 13:00-16:00
第 3 回 5 月 26 日（木） 12:30-16:30	第 11 回 10 月 9 日（日） 9:00-12:00 ブラジル交流会
第 4 回 6 月 9 日（木） 13:00-15:00	第 12 回 11 月 27 日（日） 12:00-17:00 人権セミナー
第 5 回 7 月 1 日（金） 12:00-16:00	第 13 回 12 月 23 日（金） 12:00-16:00 インスタグラム研修
第 6 回 7 月 28 日（木） 13:00-17:00	第 14 回 1 月 12 日（木） 9:30-17:00 多言語支援センター設置訓練①のオンライン運営補助など
第 7 回 8 月 4 日（木） 13:00-16:00	第 15 回 1 月 19 日（木） 12:30-17:00 多言語支援センター設置訓練②のオンライン運営補助など
第 8 回 8 月 25 日（木） 13:00-16:00	第 16 回 3 月 5 日（日） 13:00-16:00 ICT 推進事業の総括及び新年度事業の協議

[文中：敬称略]